



2021年3月22日

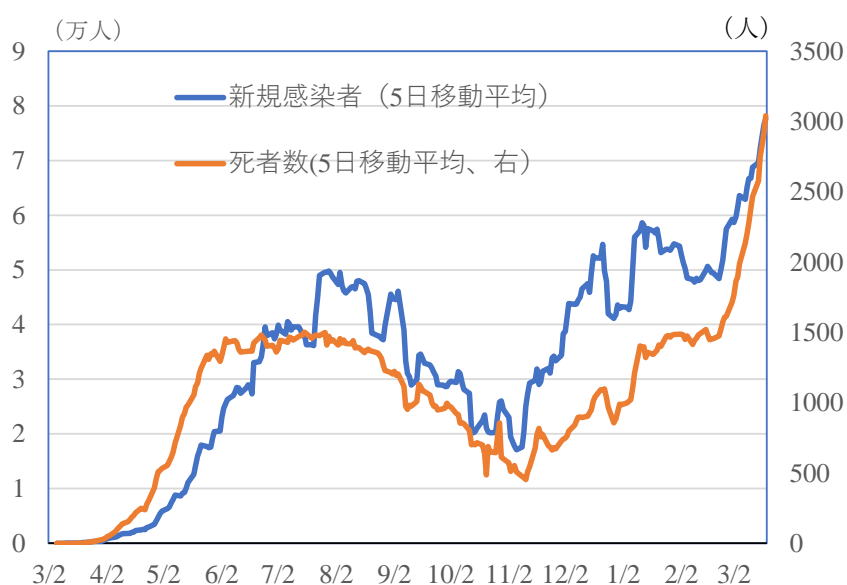
猖獗(しょうけつ)極める新型コロナウイルス変異株～ブラジルの状況

公益財団法人 国際通貨研究所
経済調査部 上席研究員 森川 央

ブラジルの新型コロナ新規感染者数（一日当たり、5日移動平均）は2020年8月に一旦ピークをつけたあと、11月からは再び増加してきており、第2波に入っている（図1）。その後、ごく短期間一時的に低下したことはあったが、直近（3/17）の新規感染者数は7万人／日超に達しており、累計の死者数も米国に次いで世界で2番目に多い。

特に警戒を要することは死者数の急増である。一日当たりの死者数は1月後半から増加してきており、2月後半からは更に加速している。現在、ワクチンの効果で米国の死者数が減少してきているので、一日当たりの死者数ではブラジルが世界一となる不名誉な記録を残してしまった。

図1 新型コロナウイルス新規陽性者数、死者数



(資料)ロイター

急増の背景には、感染力が高いとされる変異株が流行したことによる医療供給体制の圧迫がある。ブラジルの日本語紙ニッケイ新聞電子版（3月19日付）によると、17日

現在で全国 27 の連邦自治体（26 州と連邦直轄区）で集中治療室（UTI）の占有率が 80% を下回っているのはロライマ州の 73%のみである。

日本ではブラジルの変異株を「ブラジル型」と一くくりに報じられているが、確認されているだけで 5 種類の変異株が見つまっている。そのうちマナウスで発見された P1 型と、リオ州で発見された P2 型は感染力が非常に強いだけでなく、どちらも同時期に感染する重複感染や再感染を起こしやすいと恐れられている型である。

医療供給体制が崩壊しつつあるブラジルが早期に新型コロナ流行を食い止めるには、強力なロックダウンを実施するほかないだろう。だが、ロックダウンはボルソナロ大統領にとっては、自らの失政を認めることになるうえ、景気失速を起こした昨年 4-6 月期の二の舞となる。ブラジルの見通しは厳しい。

以 上

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2021 Institute for International Monetary Affairs（公益財団法人 国際通貨研究所）

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan

Telephone: 81-3-3510-0882

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階

電話：03-3510-0882（代）

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <https://www.iima.or.jp>